

イラン 2012 年版：国際的な信教の自由に関する報告書

概要

憲法及び他の法律並びに政策は、信教の自由を保護しておらず、政府は実際に信教の自由を厳しく制限している。政府の信教の自由に対する尊重は、2012 年に低下した。政府は、宗教的、民族的マイノリティを、彼らの宗教活動に関して、神への敵意（モハレベ）、「反イスラム宣伝活動」又は曖昧な国家安全保障の罪で起訴しているという報告が増えている。宗教的理由で逮捕されたと言われる者は、ほとんどの良心の囚人と同様に、悪化する刑務所の状況と取扱いに直面している。また、宗教的マイノリティのメンバーに対する逮捕や嫌がらせは、2012 年に大幅に増加した。政府は信仰心を理由に、人々を投獄し、嫌がらせをし、脅迫し、差別していると引き続き報告されている。憲法はジャアファアリ（12 イマーム）シーア派イスラム教が国教であると定めている。憲法は「他のイスラム宗派が完全に尊重されるべきである」と規定し、宗教的マイノリティとしてゾロアスター教、キリスト教及びユダヤ教の三つの非イスラム宗教グループしか公認していない。憲法はこの三つの宗教の信者が自由に礼拝する権利を保護しているが、政府は改宗に法的制限を課しており、またゾロアスター教徒コミュニティ及びキリスト教徒コミュニティのメンバーをその宗教を实践したことを理由に再三再四逮捕している。政府は何度もユダヤ教を中傷している。政府はバハーイー教徒を背教者とみなし、バハーイー教徒の信仰を「政治派閥」と定義している。政府は、その信仰を教育、実践することを禁止し、他の宗教グループのメンバーが受けていない多くの形態の差別に彼らをさらしている。

政府の言辞と行動は、特にバハーイー教徒、スーフィー教徒、福音派キリスト教、ユダヤ教徒、及び政府の公式の宗教的見解を共有しないシーア派グループなど、ほぼ全ての非シーア派宗教グループにとって不穏な雰囲気を生み出している。バハーイー教徒とキリスト教徒のグループは恣意的に逮捕され、長期にわたって拘留され、財産を没収されていると伝えられている。政府が支配する放送及び印刷メディアは、特にバハーイー教徒を中心に宗教的マイノリティに対するネガティブキャンペーンを続けている。全ての宗教的マイノリティは、特に雇用、教育及び住宅の分野で、様々な程度の、公式に是認された差別を被っている。バハーイー教徒は大学からの追放又は入学拒否を引き続き経験している。

宗教への所属、信仰、又は宗教的礼拝に基づく社会的虐待及び差別が報告されている。非シーア派宗教グループのメンバーは何らかの社会的差別に直面しており、社会の要因が一部の宗教的マイノリティにとって不穏な雰囲気を生み出している。しかしながら、様々な報告は、政府が信教の自由の乱用の主たる扇動者であることを示している。非シーア派を非難する政府のキャンペーンは、宗教的マイノリティに嫌がらせを行うことを社会の他の集団に許容する免罪の雰囲気を生み出している。

1999 年以降、米国は国際信教自由法に基づいてイランを「特に懸念される国（CPC）」に指定している。2011 年、国務長官はイランを特に懸念すべき国に再指定し、対イランの一定の輸出入に対する既存の制限を再明示した。米国政府はイラン政府による宗教的マイノリティへの苛酷で抑圧的な扱いに対する強い反対の立場を明らかにし、関連する国連及

び NGO の取り組みを支持し、高いレベルの公開声明及び報告を通じて、イラン国内での改善を強く要求し、また国際社会と外交的イニシアティブや制裁を調整した。また、米政府はイランにおける信教の自由の状況を一層理解するために NGO 及び市民社会とも連携する。米国にはイランとの外交関係がない。

第Ⅰ節 宗教人口統計

イラン統計局（Statistical Center of Iran）のイランの国内人口・住宅調査 2011 年版によると、人口は 7,520 万人である。イスラム教徒が全人口の 99%を構成する。90%がシーア派で、9%がスンニ派（ほとんどがトルクメン人、アラブ人、バルーチ族、及びクルド人で、それぞれ南西部、南東部、及び北西部に居住している）である。スーフィー教徒の人口規模については入手可能な公式の統計はない。しかしながら、いくつかの報告書はスーフィー教の教えを実践する人々が 200 万人から 500 万人いると推定している。

併せて人口の残り 1%を構成するグループには、バハーイー教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒、サービア・マンダヤ教徒、及びゾロアスター教徒などがいる。非イスラム教徒マイノリティの二大勢力はバハーイー教徒とキリスト教徒である。バハーイー教徒は約 30 万人を数え、テヘランとセムナーンに極度に集中している。国連の統計によると、30 万人のキリスト教徒がイランに居住しているが、一部の NGO はその数を最大 37 万人と見積もっている。イラン統計局はキリスト教徒の数を 11 万 7,700 人と報告している。キリスト教徒の大半はアルメニア民族で、テヘランとイスファハンに集中している。アッシリア系キリスト教徒は 1 万人から 2 万人と非公式に推定されている。福音派を含むプロテスタント諸派も存在する。イラン国外のキリスト教徒グループはプロテスタントコミュニティの規模を 1 万人未満と推定しているが、多くのプロテスタントが秘密裏に礼拝していると伝えられている。サービア・マンダヤ教徒は 5,000 人から 1 万人いる。イラン統計局は、2 万 5,271 人のゾロアスター教徒がおり、主にペルシア人であると推定しているが、ゾロアスター教徒のグループは教徒が 6 万人いると報告している。

第Ⅱ節 政府による信教の自由の尊重の現状

法的／政策的枠組み

憲法及びその他の法律並びに政策は信教の自由を厳しく制限している。憲法は「公式の宗教はイスラム教であり、その信奉すべき教義はジャアファリー（十二イマーム）シーア派の教義である」と宣言している。憲法は全ての法律及び規則が未定義の「イスラム基準」とシャーリア（イスラム法）の公式解釈に基づかなければならないと定めている。

憲法はイスラム教スンニ派にある程度の信教の自由を与え、「法律の範囲内で」ゾロアスター教徒、ユダヤ教徒、及びキリスト教徒だけが、改宗しない限り、自由に礼拝し、宗教団体を形成する自由を保護されている公認の宗教的マイノリティであると明言している。サービア・マンダヤ教徒は自らをキリスト教徒とみなしていないが、イラン政府は彼らをキリスト教徒とみなしており、したがって、彼らは三つの公認の宗教的マイノリティの中

に含まれている。イラン政府は他の一切の非イスラム宗教を認めておらず、バハーイー教徒などの他の宗教グループの信者は、信仰を实践する自由を有していない。

イスラム革命の最高指導者、アリー・ハメネイ師が 3 部門構成（立法府、行政府、司法府）の政府を率いている。専門家会議と呼ばれる 86 人のイスラム法学者のグループが最高指導者を選出する。法学者は 8 年毎に直接選挙で選ばれる。公選ではない監査評議会がイスラム法と憲法を厳守しているかどうかに関してマジュレス（議会）の全ての行為を、及び専門家会議を含むあらゆる選出公職の全ての候補者を審査する。監査評議会は、最高指導者が任命する 6 人の聖職者、及び司法府が指名し、マジュレスが承認する 6 人のイスラム法学者から構成される。

憲法は、イスラム市民が信仰を選択、変更又は放棄する権利を与えていない。政府はイスラム教徒の父親に生まれた子供をイスラム教徒と自動的にみなし、イスラム教からの改宗を死刑に値する棄教とみなしている。

非イスラム教徒は、イスラム教徒の中で公然と宗教的表現を行ったり、説教を行ったり、改宗したりすることができない。そのような改宗は死刑に値する。イラン政府は宗教的出版物の発行を制限している。政府の役人は頻繁にキリスト教の聖書を押収し、聖書又は非認可の非イスラム的出版物を印刷する出版社に業務を停止するよう圧力をかけている。

文化イスラム指導省（エルシャド）及び諜報治安省は宗教活動を綿密に監視している。イラン政府は一部の公認の宗教的マイノリティのメンバーに届出を義務付けていないが、当局はそのコミュニティの行事、宗教行事及び文化行事、並びに学校などの組織を綿密に監視している。イラン政府は福音派キリスト教信心会に会員名簿を編さんし、提出することを義務付けている。イラン政府はバハーイー教徒に警察への登録を義務付けている。

非イスラムの宗教的マイノリティは、マジュレス 290 議席のうち 5 議席が政府によって宗教的マイノリティのために確保されていることを例外に、代議機関に選出されることができず、政府又は軍の高位の職に就くことができない。5 議席の宗教的マイノリティの内訳は、アルメニア使徒教会系キリスト教徒が 2 議席、アッシリア東方教会系キリスト教徒が 1 議席、ユダヤ教徒が 1 議席、ゾロアスター教徒が 1 議席である。スンニ派はマジュレスに議席を確保されていないが、マジュレスの議員になることは認められている。スンニ派のマジュレス議員は大きなスンニ派コミュニティから選出される傾向にある。イラン政府は宗教的マイノリティの投票権を認めているが、スンニ派を含めて宗教的マイノリティには大統領になる資格がない。

イスラム教スンニ派を除く宗教的マイノリティに属する者は、司法組織又は治安機関に勤務することができず、公立学校の校長を務めることができない。当局は公共部門の職への応募者をイスラム教の遵守度とイスラム教の知識に基づいて選抜する。ただし、宗教的マイノリティに属する者も、バハーイー教徒を例外に、下級の公務員の職に就くことができる。イスラム教の原則と規則を遵守しない公務員は処罰の対象となる。バハーイー教徒は政府と軍の全ての指導的地位から排除されている。

憲法は、イスラムの理想に献身しなければならないという意味で、軍がイスラム的であればならず、イスラム革命の目的に献身する者を入隊させなければならないと定めている。ただし、実際には宗教的マイノリティに属する者は兵役を免除されない。法律は非イスラム教徒がイスラム教徒よりも上の階級になることを禁じている。憲法で保護された宗教的マイノリティに属する者で大学教育を受けた者は兵役期間中に将校を務めることができるが、職業軍人として将校になることはできない。

1991年改正イスラム処罰法第297条は、イスラム教徒及び非イスラム教徒両者の死の家族に対する賠償金として同額の慰謝料（ディヤ）（殺害賠償金（ブラッドマネー））を取り立てることを認めている。法律によると、バハーイー教徒の血は「モバーフ」とみなされる。即ち、バハーイー教徒以外の者は罰を受けずにバハーイー教徒の血を流すことができ、バハーイー教徒の家族には賠償金の受取資格がない。

イラン政府は、公認の宗教的マイノリティが学校を開設することを一般的に認めている。教育省は一定のカリキュラム要件を課し、こうした学校を監督する。少数の例外を除き、そのような私立学校の管理者はイスラム教徒でなければならない。公認の宗教的マイノリティに属する者はこうした学校に行くことを義務付けられない。宗教の教科書を含む教科書学習で使用される全ての教科書は教育省の認可を得なければならない。公認の宗教的マイノリティに属する者はペルシア語以外の言語で宗教教育を行うことができるが、その教科書は当局の認可を得なければならない。この要件は時折マイノリティのコミュニティに多額の翻訳費用を負担させることとなる。

イラン政府は、イスラム革命以来、バハーイー教徒の学生が高等教育を受ける権利を公式に否定している。1991年、文化革命最高評議会（Supreme Council of the Cultural Revolution）は、バハーイー教徒が「大学から追放されなければならない」、恐らくはバハーイー教徒を国家が支持する宗教に教化するために、バハーイー教徒の児童が「強固で立派な宗教イデオロギーを持つ学校に入学すべきである」と言明した秘密覚書に署名した。司法省は、バハーイー教徒が、自らがバハーイー教徒であると明かさない場合にのみ、入学を許可されると規定している。大学入学試験に登録するために、イラン政府はバハーイー教徒の学生にバハーイー教徒ではないと名乗ることを義務付けている。バハーイー教の信仰の教義が人の信仰を否定することではないため、こういった要件は国立大学へのバハーイー教徒の入学を妨げる。バハーイー教徒学生の宗教的帰属が知られるようになった場合、司法省は大学にバハーイー教徒学生を放校又は除名することを義務付けている。大学志願者はイスラム教神学、キリスト教神学又はユダヤ教神学の試験に合格することを義務付けられているが、バハーイー教神学の試験はない。

シーア派以外の宗教指導者たちは、公立学校でスンニ派の宗教文献とスンニ派の教育が禁止されていると報告している。スンニ派は新たな学校やモスクを建設することができない。

バハーイー教徒は社会年金制度から排除されている。さらに、バハーイー教徒は傷害又は犯罪被害に対する補償を与えられず、財産相続権を認められないことが一般的である。

イラン政府はバハーイー教徒の婚姻及び離婚を認知しないが、民間の婚姻の立証が婚姻証明書役割を果たすことを認めている。

イラン政府は公認の宗教的マイノリティがコミュニティーセンターを開設し、一定の文化団体、社会団体、競技団体、又は慈善団体を自ら資金を調達して設立することを認めている。しかしながら、イラン政府はバハーイー教徒コミュニティーに管理機関を公式に設置、維持することを禁じ、この政策の一環としてそのような機関を積極的に閉鎖している。

ユダヤ系市民は自由に海外旅行することができ、イラン政府は一般的にユダヤ系市民がイスラエルに旅行することに法的制限を課していない。その他の市民はイスラエルに旅行することができない。

イラン政府は、高位のシーア派宗教指導者の声明や見解を注意深く監視している。憲法は、聖職者が行った法律違反及び犯罪を調査するために設置される特別聖職者法廷を規定していない。最高指導者は、このように司法の枠外で運営される法廷を監督する。

イラン政府は、男性に与えられている多くの権利を女性から実質的に奪うイスラム教の法的解釈を維持している。イラン政府は、宗教的帰属とは無関係に、イラン全土で男女の隔離を強制している。全ての宗教グループの女性は公共の場で「イスラム的衣裳」を遵守することを期待されている。これには髪を覆うこと、及び緩やかな衣服で全身を覆うことが含まれている。そうした保守的衣裳に関する規則の強制は時には緩和されるが、イラン政府は定期的に「イスラム的でない衣裳」を処罰している。イラン政府の結婚及び離婚に関する 12 ヶ条契約モデルは、強制的ではないものの、全ての女性に与えられる権利を慣習及びイスラム法の伝統的解釈によって制限している。

イラン政府は次の宗教上の祝日を国民の祝日として祝っている：エイデ・ガディール、タースーアー、アーシュラー、アルバイン、預言者ムハマッド命日、第 8 代イマーム・レザ殉教日、初代イマーム・アリー誕生日、預言者ムハマッド昇天日、第 12 代イマーム誕生日、エイデ・フェトル（イード・アル・フィトル）、初代イマーム・アリー殉教日、第 6 代目イマーム殉教日、エイデ・エイデ・ゴルバーン（イード・アル・アドハ）、及びイスラム新年祭

政府の慣行

拘禁及び留置など、信教の自由の侵害が報告されている。イラン政府は信教の自由を厳しく制限している。政府が信仰に基づいて引き続き拘禁、嫌がらせ、威圧及び差別を行っていることが報告されている。イラン政府の言辞と行動は、特にバハーイー教徒、スーフィー教徒を含むイスラム教スンニ派、福音派キリスト教、ユダヤ教徒、政府の宗教的見解を共有しないシーア派グループなど、ほぼ全ての非シーア派宗教グループにとって一層不穏な雰囲気を生み出している。政府が支配する放送及び印刷メディアは、特にバハーイー教徒を中心に、宗教的マイノリティに対するネガティブキャンペーンを続けている。全ての宗教的マイノリティは、特に雇用、教育及び住宅の分野で、様々な程度の公式に是認された差別を被っている。

イラン政府は引き続き、神への敵意（moharebeh）及び「反イスラム宣伝活動」の容疑で反体制派、政治的改革派、及び平和的抗議活動家の有罪判決と死刑執行を増加させている。信頼できる NGO の報告によると、イラン政府は神への敵意の容疑で 10 人以上を処刑した。2012 年 6 月、当局は、2011 年 4 月にフーゼスタン州での抗議活動の際に逮捕され、神への敵意と「現世への悪影響（fasad-fil arz）」の罪で有罪判決を受けたアフヴァーズ地方出身のアラブ系住民 4 人の死刑を執行した。当局は 2012 年 12 月 27 日、6 人以上のクルド人サラフィー主義者を「サラフィー主義グループへの帰属」及び「テロ行為への参加」の罪で死刑に処したと伝えられている。

キリスト教牧師ユセフ・ナダルカニ（Yousef Nadarkhani）は、留置からの短期釈放など、一連の政府の措置の後、2012 年末時点で依然とした獄中にあった。2012 年 9 月、彼は、有罪となった場合に死刑が適用される 2010 年の棄教容疑では無罪放免となったが、イスラム教徒への伝道で有罪判決を受け、懲役 3 年を言い渡され、服役期間を残して釈放された。当局は 3 年の刑期の残り 45 日間服役させるため、2012 年 12 月 22 日にナダルハニを再逮捕した。当局は彼の苦難の間ずっとキリスト教の信仰を捨てるようナダルハニに圧力をかけ、信仰を捨てた場合には酌量減刑を与えると圧力をかけたと伝えられている。2012 年 3 月、当局はナダルハニの弁護士で著名な人権弁護士、モハメッド・アリ・ダドハー（Mohammed Ali Dadkhah）を短期間拘束した。ダドハーは 2011 年 7 月に「反体制宣伝活動」の容疑で有罪判決を受けていた。ダドハーは、9 年の刑期の服役を開始するために、ナダルハニの当初の釈放後間もなくの 2012 年 9 月にエヴィン（Evin）刑務所に出頭した。

キリスト教牧師で米国とイランの二重国籍者、サイード・アベディニ（Saeed Abedini）は 2012 年 7 月に家庭教会ネットワークを率いて国家安全保障を損なった容疑で自宅軟禁下に置かれた。2012 年 9 月、イスラム革命防衛隊の隊員たちがアベディニの自宅に踏み込み、彼をエヴィン刑務所に連行した。2012 年末時点で、アベディニは同刑務所で拘留されたままである。アベディニはイラン当局による肉体的・精神的虐待を受けていると伝えられている。イラン当局は彼に弁護士との面会を認めておらず、必要な治療を受けさせていない。

2012 年 9 月、国営慈善基金の長、ハッサン・サネイ師は、サルマン・ラシュディ殺害の懸賞金を 60 億イラン・リアル（50 万ドル）引き上げて、405 億イラン・リアル（330 万ドル）とした。ラシュディは 1989 年以来神の冒瀆容疑でファトワー（宗教上の問題について、有資格者である法官又はイスラム教指導者が下すイスラム法に則った裁断）の標的である。

1979 年のイスラム革命以来、イラン政府は 200 人以上のバハーイー教徒の死刑を執行してきたが、2012 年にはバハーイー教徒の死刑執行は報告されていなかった。イラン政府は頻繁に多くのバハーイー教徒の出国を妨げ、彼らに嫌がらせを行い、迫害し、一般的に彼らの財産権を無視している。

イラン政府は 2012 年に 60 人以上のバハーイー教徒を恣意的に逮捕し、その一部を釈放した。人権団体によると、2012 年末時点で、116 人以上のバハーイー教徒が拘留されており、バハーイー教徒の事件 524 件が今なお司法制度下で進行中である。多くの場合、イラン政府は、それぞれ反国家活動と虚言の拡散に関するイスラム刑法第 500 条及び第 698 条

の違反容疑でバハーイー教徒を起訴している。また、一部にはバハーイー教の世界本部はイスラエルに所在するため、イラン政府はバハーイー教徒を「シオニズムのためのスパイ」容疑で起訴することが多い。バハーイー教徒がバハーイー教本部と連絡を取っていたり、金銭的寄付を送っているとイラン政府が認定している場合、これらの容疑は深刻である。こういった容疑が釈放の際に撤回されないことが多く、容疑が未決の者はいつでも逮捕を恐れていると伝えられている。ほとんどの者は高額な罰金を支払うか、高額な保釈金を供託した後にのみ、釈放される。一部の者にとって、保釈金は不動産証書の形で供託される。その他の者は、犯罪者が出廷する旨の「後見人」の個人保証と引き換えに、又は裁判所若しくは刑務所に召喚された際に出頭する保証としての労働許可証の預託によって釈放される。政府当局者は宗教的帰属の撤回と引き換えにバハーイー教徒に虐待からの救済を提供すると伝えられている。釈放の前提条件として、宗教的帰属の撤回が投獄されたバハーイー教徒に要求される。

7 人のバハーイー教指導者ファリバ・カマラバディ (Fariba Kamalabadi), ジャマロッド・ハンジャニ (Jamaloddin Khanjani), アフィフ・ナエイミ (Afif Naeimi), ベーロウズ・タヴァッコリ (Behrouz Tavakkoli), サイド・レザイエ (Saeid Rezaie), ヴァヒド・ティズファーム (Vahid Tizfahm), マーヴァシュ・サベト (Mahvash Sabet) は 2012 年末時点で依然として拘留されており、2011 年に当局によって 20 年に延長された刑期を務めている。彼らは 2011 年に「イスラエルのためのスパイ、宗教的神聖の侮辱、及び反イスラム共和国宣伝活動」の容疑で起訴された。イラン政府は 7 人のいずれにも彼らの弁護士、アブドルファッター・ソルタニ (Abdolfattah Soltani) との接触を認めなかった。ソルタニは 2011 年 9 月に「反体制政治宣伝の流布」、「違法反体制グループの設立」、並びに「国家安全保障を損なう目的での集会及び共謀」などの容疑で逮捕された。2012 年 3 月、当局はソルタニに懲役 18 年を言い渡し、さらに 20 年間弁護士活動を行うことを禁止した。彼の妻で投獄されていた弁護士、マッソウメー・デーガーン (Massoumeh Dehghan) は反国家政治宣伝の流布の容疑で起訴され、2011 年に懲役 1 年を言い渡され、出国を禁じられた。

2012 年 2 月、当局はバハーイー教徒であるアデル・ファナイアン (Adel Fanaian) に、「国家安全保障を擾乱する目的でのグループの動員」及び「反体制政治宣伝活動」の容疑で懲役 6 年を言い渡した。彼は 2010 年に初めて逮捕され、保釈金を供託して釈放されていた。他に 6 人以上のバハーイー教徒 (ポウヤ・テブヤニアン (Pouya Tebyanian), ファラマルズ・フィロウジアン (Faramarz Firouzian), アニサ・イガーニ (Anisa Ighani), タラネー・トラビ (Traneh Torabi), ジノウス・ヌラニ (Jinous Nurani), ルフィア・ビダーギ (Rufia Bidaghi)) が 2012 年に同様の容疑で 1 年から 6 年半の懲役刑を言い渡された。フィロウジアン、イガーニ、ヌラニ、テブヤニアン、及びビダーギは 2012 年末時点で依然として拘留されていた。

テヘラン検察長官は、バハーイー教を宣伝する外国に本拠を置くテレビ・ネットワークと密接に接触したとして、2012 年 12 月にテヘランで 28 人のイラン人を情報当局が逮捕したと発表した。当局は逮捕された者の氏名又は具体的な容疑を発表していない。

イラン政府はバハーイー教徒の住宅及び企業に踏み込み、大量の個人財産、営業用資産、及び宗教的資料を押収した。また、イラン政府は、所有者が正式な所有権証書を保有していたにも拘わらず、バハーイー教青年学級が開かれていた民間家屋を差し押さえた。イラン政府は、墓地、聖地、病院の敷地、及び管理センターなど、1979年の革命後、バハーイー教の多くの財産を引き続き差し押さえている。イラン政府は一般的にバハーイー教徒が宗教的伝統に従って死者を埋葬するのを妨げ、彼らの墓地の多くはこれまでに破壊されている。

当局がバハーイー教徒の事業の閉鎖を強制し、事業に制限を課し、民間企業の経営者にバハーイー教徒従業員を解雇するよう要求し、事業・商業免許の新規又は更新申請を却下していると報告されている。2012年5月、諜報治安省の職員がセムナーンにあるバハーイー教徒が完全に又は部分的に所有する2工場を強制捜査し、工場を封印し、操業を停止した。

商工会議所連合会 (Association of Chambers of Commerce) (名目的には独立団体だが、政府の大きな影響を受けている) はバハーイー教徒、その業種及び雇用のリストの編纂を始めたと伝えられている。また、商工会議所連合会は業界団体及び労働組合にも同じ情報を収集するよう指示している。一度特定されると、バハーイー教徒の企業は閉鎖され、事業免許又は賃貸借契約は却下されるか、更新されず、バハーイー教徒以外の企業はバハーイー教徒が所有する企業と取引しないよう指示されると伝えられている。

イラン政府は、バハーイー教徒が自らバハーイー教徒であると明かさない限り、自由に大学に入学することができると公式に主張しているが、公立大学と私立大学は引き続きバハーイー教徒学生の入学を拒否し、放校処分にしており、バハーイー教徒が高等教育を受けるのを妨げる暗黙の政策が依然として効力を有していることを示している。2011年に「バハーイー教徒コミュニティへの所属」を理由にした逮捕後、バハーイー教高等教育研究所 (Bahai Institute for Higher Education) のフアド・モカッダム (Fuad Moqaddam) 及びエマヌラー・モスタキム (Emanullah Mostaqim) は両者とも2012年に懲役5年を言い渡された。モスタキムは2012年末時点で保釈金を供託して釈放されていると伝えられている。モカッダムの状況は不明である。

1987年に設立されたバハーイー教高等教育研究所は、不明確な「国家安全保障上の懸念」を根拠に2011年に違法と宣告されたと伝えられている。イラン政府は2012年を通じてバハーイー教高等教育研究所のメンバーを引き続き投獄、拘留していた。カムラン・ラヒミアン (Kamran Rahimian) 教授、ファラン・ヘサミ (Faran Hesami)、ケイヴァン・ラヒミアン (Keyvan Rahimian)、及びシャキブ・ナスロラー (Shakib Nasrollah) は2011年、「バハーイー教徒コミュニティへの所属」及び「国家安全保障を擾乱するための集会及び共謀」の容疑で有罪と認定された。カムラン・ラヒミアンは2012年1月に懲役4年を言い渡され、2012年末時点で服役していた。カムランの妻、ヘサミも1月に刑を言い渡され、7月に4年の服役を始めた。ケイヴァンは2012年6月に懲役5年を言い渡され、2012年9月に服役を始めた。ナスロラーについてはさらなる情報は入手できないが、2012年末時点で刑務所にいると考えられている。これらのバハーイー教徒の被告人は彼らの弁護士アブ

ドルファッター・ソルタニの弁護を受けることができなかった。ソルタニも 2011 年に拘留されていた。

現在進行中のイラン政府によるバハーイー教徒の個人財産の押収と教育や雇用へのアクセスの拒絶は、バハーイー教徒コミュニティの経済基盤を蝕み、その存続を危うくしている。バハーイー教徒コミュニティのメンバーは、バハーイー教徒児童が公立学校で教師や管理者によるイスラム教に改宗させようとの試みに晒されていると報告している。バハーイー教徒学生の拘留は 2012 年も続いていた。2 名の女学生、レヴァ・ハンジャニ (Leva Khanjani) とナシム・スルタン・ベイギ (Nasim Sultan Beigi) はテヘランで拘束され、8 月にエヴィン刑務所に送られたと伝えられている。レヴァ・ハンジャニは 2009 年 12 月の選挙後の学生の抗議活動への参加に関連した容疑で懲役 2 年を言い渡された。

スーフィー教徒への嫌がらせと逮捕も 2012 年を通じて続いていた。かつて「神への敵意」及び「現世への悪影響」の容疑で無罪放免となったカヴァル (Kavar) 出身の修行僧、セヴンティーン・ゴナバディ (Seventeen Gonabadi) は、2012 年 7 月、「国家安全保障を損なう行為」、「公共の秩序の擾乱」、「暴行」及び違法武器携帯の容疑でシーラーズの革命法廷に召喚された。ノスラト・タバシ (Nosrat Tabasi) は、懲役 5 年、うち 4 年半を執行猶予とする判決を言い渡された後、2012 年 9 月に 6 ヶ月の刑期の服役を始めた。アリ・レザ・ロシャン (Ali Reza Roshan) は、「国家安全保障を擾乱する集会と共謀」の容疑で 1 年の実刑と 4 年の刑期を執行猶予とする判決を言い渡された。イラン政府は 2011 年 9 月に逮捕した約 15 人のスーフィー教徒のウェブマスターとジャーナリストを今なお拘束している。数名のスーフィー教徒の囚人が栄養失調と医療の欠如を被っていると伝えられている。

治安部隊はクルド人スーフィー教徒グループ、マクタベ・グラン (Maktabe Quran) のメンバーを逮捕、又は拘禁している。マクタベ・クラン代表のハサン・アミニの事務所の主要人物、アブドゥラ・アッバシは不特定の容疑で 2012 年 8 月に拘留され、2012 年末時点で引き続き刑務所にいたと伝えられている。2012 年 11 月、他の 3 人のメンバーが召喚され、グループの活動について尋問された。2012 年 9 月、教育省は、グループのメンバーであると報じられた教師 17 人がクルド地区の町で教育活動を行うことを禁じた。クルディスタンのシャーリー (Shar'ee) 公共判事事務所の長、シャイク・フセイン・パナヒ (Shaikh Hussein-Panahi) が 2012 年 9 月に不特定の容疑で逮捕された。また、スンニ派コミュニティのメンバー数名が尋問のために治安局に召喚されたと報告されている。

当局は福音派を含む数百人のキリスト教徒を逮捕したと伝えられている。この事件の多くの現状は 2012 年末時点で判明していない。当局は数人のキリスト教徒をほぼ直後に釈放したが、他の者を弁護士との面会を認めずに数ヶ所で拘留している。また、当局は、アルメニア使徒教会派及びアッシリア東方教会派を含む「保護」キリスト教徒グループのメンバー数名も逮捕された。人権団体によると、刑務所当局はそのような囚人に適切な医療を与えていないと伝えられている。そのような事例の 1 つでは、ベーナム・イラニ (Behnam Irani) 牧師は刑務所で医者診療を受けることなく血液感染を被った。

2012 年 9 月、当局はファールス州の家庭教会 4 ヶ所に踏み込み、「海外のイスラム体制の敵との接触」及び「家庭でのキリスト教の礼拝」の容疑でキリスト教徒 40 人を逮捕した。この事件の現状は 2012 年末時点で不明であった。NGO の報告によると、数名は多額の保釈金を支払って釈放された。諜報治安省は引き続き 10 人以上を拘留していると伝えられている。

2012 年 10 月、当局は、2011 年 12 月に逮捕した 4 人のキリスト教徒、ファルハド・サボクロウ (Farhad Sabokrouh)、シャーナズ・ジャザン (Shahnaz Jazan)、ダヴード・アリ＝ジャニ (Davood Ali-Jani) 及びナセル・ザメン＝デズフリ (Naser Zamen-Dezfuli) に「伝道活動及びキリスト教の拡大を通じた反体制政治宣伝活動」の容疑で懲役 1 年を言い渡された。彼らの刑は控訴の間、停止されている。

治安部隊はクリスマスの祝典に踏み込み、2012 年 12 月 27 日にテヘランで 50 人のキリスト教改宗者を逮捕し、釈放するまでに彼らを 4 時間訊問した。アメリカ人キリスト教牧師ヴルイル・アヴェネシアンもこの時に逮捕された。

イスラム教からキリスト教への改宗者は嫌がらせ、逮捕及び刑の宣告に直面する。多くの逮捕は警察の宗教的集会に対する強制捜査時に行われ、その際、政府は宗教的財産も押収する。2012 年 2 月、シーラーズの教会として使われている住宅で、10 人のキリスト教改宗者が逮捕された。2012 年 10 月、治安部隊が 4 人のキリスト教改宗者 (シャハブ・サミミ (Shahab Samimi)、ファリバ・カリムハニ (Fariba Karimkhani)、ファルシャド・ラヒムデル (Farshad Rahimdel)、ヤッサール・ミルザ・ザンジャニ (Yasser Mirza Zanjani)) の住宅を強制捜査し、彼らの財産の一部を押収し、伝えられるところによると宗教活動のために、彼らを逮捕した。

ゾロアスター教徒も拘留と嫌がらせを報告している。2011 年 10 月に諜報治安省の捜査官が逮捕したキャラジのゾロアスター教徒、ヤシン・ジャムシディの消息や裁判に関する情報はない。

シーア派が逮捕されたり、嫌がらせを受けているという報告があった。ラスク市のシーア派指導者、モラヴィ・ファティ・ナグシュバンディ (Molavi Fathi Naghshbandi) が数名のスンニ派法学者と共に、2012 年 1 月に発生した政府支持派のスンニ派聖職者、モラヴィ・モスタファ・ジャン・ゼヒ (Molavi Mostafa Jang Zehi) の暗殺に関連して、2012 年 4 月に逮捕された。2012 年 5 月の彼の息子、アブドルガーファル・ナグシュバンディ (Abdolghafar Naghshbandi) の逮捕は抗議を激化させ、当局が発砲し、少なくとも 1 人が死亡したと伝えられている。

政府の政策又は最高指導者の見解を全面的には支持していないシーア派の宗教指導者も脅迫と逮捕に直面する。明記されていない容疑に基づいてエヴィン刑務所で懲役 11 年の刑に服しており、いくつかの健康問題を被っている反体制派シーア派聖職者、ホセイニ・カゼメイニ・ボロウジェルディ (Hossein Kazemeini Boroujerdi) 師にとって、刑務所の状況は劣悪なままであった。2012 年 3 月、同房者が彼の食糧に毒を入れたと伝えられている。彼の支持者と家族も嫌がらせを受け、襲撃されたと伝えられている。例えば、2012 年 10

月、近縁の親戚、ファテメー・サメニは、運転手が彼女に車をぶつけ、負傷を負った。2012年の10月より前には、別の身元不詳の運転手が同様に彼女を車で襲った。

2012年8月、カムラン・アヤジ（Kamran Ayazi）博士は、インターネットの掲示板上でイスラム教を批判した罪で有罪判決を受けた後、鞭打たれ、大量の出血をした。彼は現在、「神に対する敵意」の罪で懲役9年の刑に服役中である。

ドレスコードの執行が増加していると報告されている。逮捕された者は罰金又はむち打ちなどの他の処罰の対象となる。「道徳警察」の長、アーマド・ロウズベハニ（Ahmad Rouzbehani）は2012年5月、「7万人の警官が街頭でのドレスコード違反を取り締まるために展開している」と述べている。2012年6月には、女優がテヘランでのコンサートに向かう途中、「不適切なヒジャブ」のために逮捕された。同じコンサートに出席した多数の女性も同じ容疑で逮捕されたと伝えられている。

政府は積極的にキリスト教徒の信教の自由を否定している。キリスト教徒、特に福音派は、2012年にいっそう多くの嫌がらせと監視を経験した。

イラン政府は福音派キリスト教の活動を入念に監視し、イスラム教徒が教会の敷地に立ち入ることを阻止し、教会を閉鎖し、キリスト教改宗者を逮捕して、改宗の禁止を執行した。当局は、イスラム教徒に伝道しない、又はイスラム教徒に教会の礼拝への出席を認めないとの誓約書に署名するよう福音派教会の指導者に圧力をかけた。福音派礼拝の集会は日曜日だけに制限された。報告は、イスラム教徒にキリスト教教会への訪問を認める行為を改宗と当局がみなしていることを示唆している。福音派信心会は、そのコピーを当局に提出しなければならない会員カードを携帯することを義務付けられている。信心会センターの外に配置された当局者は礼拝者を身元照合の対象とした。

NGO、インターナショナル・キャンペーン・フォー・ヒューマン・ライツは、イスラム革命防衛隊が、諜報治安省及び文化イスラム指導省に代わって、教会の監視を増やしていると報告した。キリスト教の全ての宗派は、キリスト教徒以外の者が礼拝に参加していることを確認するためと言われている教会外部の監視カメラの存在を報告している。

サイバー警察部隊が一部のキリスト教徒の家屋を強制捜査し、その財産を押収している。例えば、サイバー警察部隊は2012年11月、ブロガーでキリスト教改宗者のアリレザ・エブラヒミ（Alireza Ebrahimi）の住居を強制捜査した。エブラヒミは在宅しておらず、2012年末時点で彼の行方は不明である。また、2012年11月、警察は他のキリスト教改宗者2名、サイード・ミザエイ（Saeed Mizaei）とサデー・ミザエイ（Sadegh Mizaei）を「反イスラム教宣伝」と「国家安全保障に反する行為」の容疑で逮捕した。

公式報告とメディアは引き続きキリスト教家庭教会を「違法ネットワーク」及び「シオニストの政治宣伝機関」と特徴付けている。家庭教会の逮捕されたメンバーは敵国を支援したと告発されることが多い。2012年5月、家庭教会のメンバー5人が、とりわけ「反イスラム体制宣伝」及び「キリスト教伝道を通じたイスラム教の聖なる模様の侮辱」の容疑

でシーラズで拘束された。彼らは 2012 年末時点で裁判待ちの状態です刑務所に拘留されている。

アッシリア東方教会派のキリスト教徒は、そのコミュニティが独自の教科書を書くことを許され、政府の認可後、その教科書が政府の費用で印刷され、アッシリア人コミュニティに配布されると報告されている。政府はヘブライ語教育を許可していると伝えられているが、特に非宗教的教科書など、ヘブライ語の教科書の配布を制限しており、ヘブライ語を教育することを困難にしている。イラン政府はユダヤ人学校に、他の学校のスケジュールに合わせるために、ユダヤ教の戒律違反となる、土曜日に開くよう義務付けている。

いくつかの例外を除き、ユダヤ教の礼拝に対する政府の制限又は介入はほとんどない。しかしながら、ユダヤ人コミュニティは官製差別を経験している。当局は引き続き反ユダヤ声明を出し、ホロコーストを否定することを意図した催しを組織し、反ユダヤ政治宣伝を是認している。そのような政治宣伝は公式声明、メディア・アウトレット、出版物及び書籍を必要としている。イラン政府の反ユダヤ的言辞、及びイラン国内のユダヤ系市民が全てシオニズムとイスラエル国家を支持しているというイスラム教過激派の認識は引き続きユダヤ人に対する敵対的雰囲気を生み出している。弁舌巧みな攻撃はシオニズム、ユダヤ教及びイスラエルの区別をさらにぼやけさせ、イラン国内でのユダヤ人コミュニティの将来の安全に関する懸念の増大に寄与している。2012 年 8 月の声明で、アフマディネジャド大統領は「恐ろしいシオニストの氏族が主要な世界の出来事を支配して今で約 400 年であり、世界の政治組織、メディア、金融機関及び銀行における主要な権力循環の背後にいる」と述べ、シオニストとユダヤ人を融合した。最高指導者ハメネイ氏は 2012 年 8 月の演説でシオニスト体制に言及し、シオニストを「癌性腫瘍」とした同様の言い方を行った。

アフマディネジャド大統領は引き続きホロコーストの存在とその範囲に疑問を投げかけ、公然とイスラエルの絶滅を要求した。彼の言辞は最高指導者の言辞と併せて、ユダヤ人コミュニティにとってより敵対的な環境を生み出している。2012 年 9 月 9 日のフランスのジャーナリストとのインタビューで、大統領は「シオニスト体制はホロコーストに依拠しており、ホロコーストが体制から取り去られれば、体制存在の哲学は消え去り、ホロコーストに基づく国際的な舞台での政治は全て破滅する」と語っている。

イラニアン・ドキュメンタリー・アンド・エクスperimental・フィルム・センターは、「反セム族 (Yahod Setiz)」と題する映画を制作した。この映画はナチスの強制収容所アウシュビッツを嘲笑った。2012 年 5 月 25 日、カンヌ映画祭はこの映画を不快なものとして述べ、プログラムからこの映画を排除した。

2012 年 6 月遅く、テヘランでの国際麻薬禁止会議の際、モハンマド＝レザ・ラヒミ副大統領は、麻薬中毒のシオニストが 1 人ではないことを証拠として使い、「シオニスト」が世界に違法ドラッグを拡散していると非難する反ユダヤ演説を行った。後に、イランニュースは、副大統領が反ユダヤの人種差別的演説を行ったことをラヒミの事務所が否定したと報じた。

また、当局は、サービア・マンダヤ教徒コミュニティのメンバーに高等教育へのアクセスを与えないことが多いなど、他の宗教的マイノリティに対する嫌がらせと同じような方法でサービア・マンダヤ教コミュニティに嫌がらせを行い、抑圧している。

スンニ派の聖職者と回収の逮捕及び嫌がらせが報告されている。多くのスンニ派が差別を受けていると主張している。しかしながら、差別の原因が宗教的なものであるか民族的なものであるかを区別するのは困難である。というのは、ほとんどのスンニ派は民族的マイノリティのメンバーでもあるからである。スンニ派は、テヘランに 100 万人以上のスンニ派が存在するにも拘わらず、テヘランにスンニ派のモスクがないことを顕著な例として引用している。スンニ派指導者は、住民がほとんどスンニ派の地域でさえ、公立学校でスンニ派の宗教的文献と教育が禁止されていると報告している。また、スンニ派はクルディスタン州やフーゼスタン州など、スンニ派が多数を構成する州での政府任命職でスンニ派が不当に少ないこと、及びスンニ派が政府の上位の職を得ることができないことを指摘している。クルディスタン州、フーゼスタン州及びスィスターン・バルーチェスターン州など、スンニ派の人口が多い州の住民は、差別、基本的政府サービスの欠如、及びインフラプロジェクトへの不十分な資金供給を報告している。

2011 年 12 月、マジレスのスンニ派議員は最高指導者に信教の自由に関する憲法の原則の施行、テヘランでのモスク建設の許可、及び大統領選に立候補する権利を求める書簡を送った。2012 年末までに、公式の回答は報告されていない。

治安当局は引き続きスンニ派に帰属する祈祷所を強制捜査し、犠牲祭を示す宗教儀式（イド・アル・アドハ）を開くことを妨げている。スンニ派アラブ系住民 19 人がイド・アル＝フィトル（ラマダーン明け祭）の宗教的祝日の前にフーゼスタン州で逮捕された。テヘランに住みスンニ派は、宗教儀式のために借りた住宅に入ることを阻まれた。彼らはシーア派のイマームが礼拝を主催することを義務付けられた。

イラン政府はスーフィー教徒コミュニティとその宗教的実践を抑圧している。諜報機関と治安機関は著名なスーフィー教指導者に対する嫌がらせと脅迫を強めている。スーフィー教徒グループとフセニヤ（礼拝場）に対する政府の制限は近年、より著しくなっている。当局者は 2012 年にスーフィー教徒の住宅、企業、及び宗教的遺跡を破壊した。

イラン政府は、物議をかもし政治的考えを表明し、ジャーナリズムなどの非宗教活動に参加したとして聖職者を起訴するために聖職者法廷を利用していると伝えられている。2012 年 2 月、特別聖職者法廷の廷吏は反体制派の聖職者、故ホセイン・アリ・モンタゼリ師の書庫の扉及びその息子アーム度の住居の扉を封印した。2012 年 7 月、NGO は、反体制派聖職者でブロガーであり、2010 年にスパイ行為で有罪判決を受けたアラシュ・ホナルヴァル・ショジャイーが「一般の不安を生み出す意図で虚言を広めた」として特別聖職者法廷での新たな裁判に直面すると報告した。2012 年末時点で、彼の裁判に関する新たな情報はない。

イランの人権に関する国連特別報告者、アーメド・シャヒード博士は、2012 年 9 月に 3 本目の報告書を提出した。その中で、彼は「公認及び非公認の宗教の信者は、様々なレベ

ルの脅迫、逮捕、拘留、及び信仰心に重点を置いた尋問を報告している」と指摘している。また、彼は「報告及びインタビューがイランでの信教の自由に関する不穏な傾向を引き続き描いている」と述べている。

第 III 節 信教の自由の社会的尊重の現状

宗教的帰属、新興又は宗教的实践に基づく社会的虐待又は社会的差別が報告されている。憲法はキリスト教徒、ユダヤ教徒及びゾロアスター教徒に「保護」宗教的マイノリティの地位を与えているが、実際には非イスラム教徒は多大な社会的差別に直面し、政府の行動は宗教的マイノリティにとって不穏な雰囲気を生み出す社会の小集団を引き続き支援している。2012 年に出された人権団体及び国際機関の報告の多くは、社会的虐待又は社会の行動が政府の行動又は奨励に由来していると断言している。

保守的メディアは、2005 年 8 月にアフマディネジャド大統領の就任後に始まった非イスラム宗教的マイノリティを攻撃するキャンペーンを続けている。政治的指導者及び宗教的指導者は一連の非イスラム教徒を攻撃する扇動的な声明を出し続けている。こうしたキャンペーンは 2012 年を通じて非イスラム教徒コミュニティにとって非常に劣悪な状況に寄与した。いくつかの都市でバハーイー教徒は放火による襲撃の標的であった。全ての事件で、警察は犯人を見つけるために何もすることができないと語っている。いくつかの放火事件は、他の宗教グループのメンバーとのバハーイー教徒の対話に関連しているように思われる。というのは、火災直後に焼けた企業の所有者に送られた書簡がバハーイー教徒にイスラム教徒の味方にならないよう警告していたからである。

イラン全土の社会の様々なレベルで、バハーイー教徒にとっての問題が報告されている。バハーイー教徒は、威嚇的なメモ、CD、テキストメッセージ及びパンフレットを受け取ることなど、継続的な個人的嫌がらせを経験している。バハーイー教徒の児童が学校で嫌がらせを受け、イスラム教への改宗の対象とされる事例が報告されている。学生及び教育者は特に、両親と子供との宗派的な緊張を生み出そうとして、バハーイー教徒の少女を標的としている。

シーア派聖職者と礼拝主導者がスーフィー教とイランでのスーフィー教徒の活動を説教と公的声明の両方で公然と非難する事例が多数報告されている。

反ユダヤ主義は依然として問題である。多くのユダヤ人は、報復を恐れてイスラエル国家との接触又は支援を制限しようとしている。反米・反イスラエルデモには、「イスラエル」と「シオニズム」だけを非難した過去の慣行とは対照的にユダヤ人の非難が含まれている。2012 年 11 月、土地紛争を巡ってイスファハンに住むユダヤ人女性が刺殺され、遺体が切断されたと伝えられている。彼女の家族は、収用され、隣接するモスクに帰属させられた家屋の一部の返還を求める法的訴訟を遂行していたため、脅迫を受けていた。家族は犯罪が宗教的な動機のものであると断言できなかった。

2012 年にサービア・マンダヤ教徒コミュニティのメンバーが社会的差別を受け、イスラム教に改宗するようとの圧力を経験したと報告されている。

第 IV 節 米国政府の政策

1999 年以来、米国は、信教の自由に特に深刻な侵害を与えている、又はそれを許容していることを理由に、国際信教自由法に基づき、イランを「特に懸念される国 (CPC)」に指定している。2011 年 8 月、国務長官は、イランを CPC に再指定し、2010 年イラン包括制裁法第 402 条(c)(5)により、同法第 103 条(b)に従って、一定の対イラン輸出入に対する既存の制限を再明示した。

米国はイランとの外交関係をもっていないため、イランの宗教の自由の侵害及び制約について、イラン政府に対し、直接懸念を提起していなかった。しかしながら、米国政府は公開声明や報告書、関連する国連及び NGO の取り組みの支持、外交的イニシアティブ及び、イラン政府の人権侵害に終止符を打たせる圧力をかける制裁を通じ、その立場を明らかにしている。数多くの機会に、国際的信教の自由担当の無任所大使など、米国政府高官はイラン国内のバハーイー教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒及び他のコミュニティの状況に言及している。

2012 年 2 月、国務省及び財務省は、イラン国民に対する深刻な人権侵害に責任がある又は、共謀して行っているとして、諜報治安省に対して制裁を課した。同省が指定されたのは、一部において、容疑なくバハーイー教徒コミュニティのメンバーを逮捕、拘禁しているため。

2012 年を通じていくつかの機会に、国務省は、政治的信念を表明したことだけを理由にした市民の拘禁を批判した。例えば、2012 年 2 月と 7 月、国務省は、ヨウセフ・ナダルハニ牧師の有罪判決を非難し、彼の即時釈放を要求した。国務省高官は 2012 年 6 月の麻薬乱用に関する国際会議でのモハンマド・レザ・ラヒミ第一副大統領の反ユダヤ演説を非難した。

2012 年 3 月、米国はイランの人権に関する国連特別報告者の人気を更新するために国連人権理事会で賛成投票した。また、米国は 2012 年 11 月に、宗教的マイノリティへの迫害の増大など、イランの人権慣行に対する懸念を表明する決議に賛成する投票を国連第 3 委員会で行った。

日本語訳は日本国政府により翻訳したものである。